

特集 平成15年度事業報告・平成16年度事業計画

『ガラスびんの3R』を積極的に推進していきます。

第8回通常総会を開催。 事業報告ならびに事業計画が承認されました。

去る6月8日、ガラスびんリサイクル促進協議会の第8回通常総会を開催いたしました。（東京商工会議所ビル8階会議室）

総会では、平成15年度の実績報告ならびに決算報告、平成16年度の実績計画ならびに収支予算を審議、それぞれについて承認されました。

平成15年を振り返りますと、ガラスびん生産量（経済産業省「窯業・建材統計」）は、156万1千トンで対前年比7.6%の減少となり、カレット利用量は141万トンでカレット利用率は90.3%に達しています。

このような状況下において、ガラスびんリサイクル促進協議会では、容器包装リサイクル法に適切に対応するため、財団法人日本容器包装リサイクル協会と連携し、回収されたカレットの効率的なリサイクルを促進するため、企画委員会、リサイクル部会、リターナブル部会、他用途利用部会、広報部会等において、各種課題に対する取組みを行いました。

（平成15年度の各委員会・部会活動内容は後述）

循環型社会の形成をめざして、 3Rの視点で事業を展開していきます。

平成13年に施行された「循環型社会形成基本法」では、リデュース（Reduce・発生抑制）、リユース（Reuse・再使用）、リサイクル（Recycle・再利用）の3Rが、その実行方策として示されており、この3Rを基本テーマとして、様々な分野で循環型の社会づくりがすすめられています。

ガラスびんリサイクル促進協議会においても、リデュース（均一・薄肉化によるガラスびんの軽量化）、リユース（リターナブルびんの再使用）、リサイクル（カレットの再利用と他用途利用）の3Rについて、事業を展開してきましたが、今後は、さらに積極的に『ガラスびんの3R』を推進していきます。

平成16年度の普及啓発活動においては、パンフレット、ポスターなどの広報ツールやホームページ、イベント等において、びんの軽量化による環境的なメリットをアピールしながら、『ガラスびんの3R』について、積極的にPRしていきます。

（平成16年度の各委員会・部会活動計画は後述）

挨拶をする小川昇会長 ▶



▲第8回通常総会



平成15年度事業報告

1. 企画委員会の活動

- 「容り法検討プロジェクト」の設置
容器包装リサイクル法の見直しが平成17年度に行われる予定のため、現行の問題点についての検討を行った。
- 「中長期課題検討プロジェクト」の設置
促進協議会の役割、活動内容の見直し及び事業規模、会費制度等について検討を進めていく。

2. リサイクル部会の活動

- トータルフローシステムの運用
トータルフローシステムにより、市町村系、ポトラ系、事業系のカレットの回収量及び購入量の把握を行った。
- 品質の良いソースカレットの確保
カレット品質の悪い市町村に対して、品質改善要請のため、訪問し調査を行っている。
- ◎調査実施市町村：61（一部事務組合を含む）
- 業界統一の製品カレット受入れ品質規格の適用
日本ガラスびん協会技術委員会が作成した新統一規格が10月1日から適用された。びんメーカーの要求するカレット納入製品の品質を向上させることへのコンセンサスを取り付け、カレット業界に努力をお願いしている。
- アルミ箔ラベルからアルミ蒸着ラベルへの転換要請
アルミ箔ラベルをご使用のユーザーに対して、アルミ蒸着ラベルへの転換を要請する活動を行った。

3. リターナブル部会の活動

- 300ml統一びん洗びんテストの実施
日本酒造組合中央会による清酒用300ml統一びんが徐々に回収されつつあることから、ラベルの剥離状況について確認するため、洗びんテストを行った。
- 南九州地域における焼酎びんのモデルリユースシステム構築検討調査（経済産業省委託事業）へ参画
- 南九州における900ml茶びんの統一リユースシステムモデル事業（環境省循環型社会形成実証事業）へ参画

4. 他用途利用部会の活用

- 他用途ネットワークIT事業の本格運用
他用途ネットワークIT「e-カレット」の運用を11月4日より本格的に開始。常時30～40件のカレット売り込みデータが掲載され、利用されている。
- 他用途利用事例、技術論文などの情報提供
- カレットのグリーン購入法に向けての働きかけ
環境省よりグリーン購入法について、資料提出を求められ「ガラスカレット」を申請したが、適用されなかった。
- カレット入りアスファルト舗装施工実績調査実施
道路会社140社に対して郵送でフォーマットへの記入を依頼してデータを収集し、平成14年度分を追加した同集計表を作成し、ホームページに掲載した。

5. 広報部会の活動

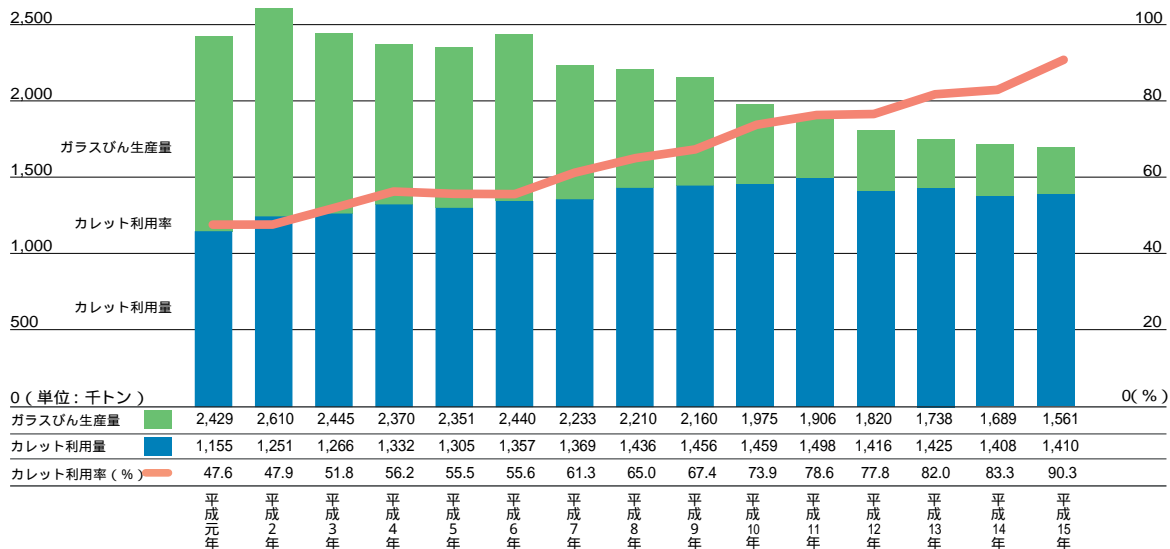
- ガラスびんの「3Rの取組み」についての広報基盤作りを基本方針として、以下の広報活動を行った。
- ホームページの更新
- パンフレット・ビデオ等の作成、配布
新パンフレット「ミルちゃんとなまぶくんの学習ノート」
新ビデオ「くるくるくるくるガラスびんリサイクル」
- 「びんのリサイクル通信」の発行
- ノベルティー用品・PR用品の作成、配布
- イベント等への出展、協力

6. 調査研究事業

- 容器ライフサイクルコスト研究会
前年度に引き続き、使用済み容器のリサイクル・廃棄コストの把握と社会的コストミニマムへの提案を目的として、地方自治体及び事業者についてLCCの調査研究を行った。
- 環境省「容器包装LCAに係る調査・検討事業」へ参画
前年度の活動をさらに進めながら、各種の実態調査を行い、基礎データの精度向上と補強等が行われた。

ガラスびんの生産量およびカレットの利用量と利用率

データ：経済産業省「窯業・建材統計」、日本ガラスびん協会、ガラスびんフォーラム



平成16年度事業計画

1. 効率的なリサイクル推進

効率的かつ最小コストによるガラスびんリサイクルを推進するための情報収集及び提供を行う。

■リサイクルトータルフローシステムの運用

カレット商のカレット回収量とびんメーカーのカレット購入量について、毎月の報告に基づいて情報収集を行い、そのマッチングに努めるためのトータルフローシステムを運営し、カレットの円滑な流通に関する業務を行う。ITを活用したシステムの運用により、ブロック別に把握するとともに、データのフィードバックを行う。

■カレット利用率の更なる向上

日本ガラスびん協会の協力を得ながら、カレット利用率を更に向上させるための技術的な検討を行う。

■品質の良いソースカレットの確保

分別基準適合物とみなされない品質の悪い市町村に訪問し、改善要請を継続、強化する。

2. リターナブルびん普及のための活動

■主なリターナブルびんの動向把握

ビールびん、1.8Lびん、牛乳びん等、リターナブルびんの流通量等の把握、調査を行う。

■環境省循環型社会形成実証事業への参加、協力

「南九州地域における900ml茶びんの統一リユースシステムモデル事業」について協力する。

■リターナブルびん支援のための提案、要請

循環型社会形成推進基本法等によりリユースの社会的重要性が高まる中、飲料容器の中でガラスびんが唯一実現しているリターナブルについて、新たな動きに対する支援策を研究し、国に要請する。

■消費者に向けてのリターナブルびんのPR活動

ホームページ、イベント等の展開で、リターナブルびんの啓発情報活動を行う。

3. 他用途利用の促進

■他用途利用支援「T e -カレット」の運用

経済産業省の事業委託を受けて作成した「他用途ネットワークIT」について、他用途利用情報として運用する。

■他用途利用の現状把握と拡大策の検討

カレットの道路舗装以外の用途について、実態を把握するとともに、新たな用途への可能性について検討する。

■他用途利用促進の条件整備についての要請活動

カレットのグリーン購入法適用に向け、関係省庁に対して、他用途利用促進の条件整備について要請する。

■カレット入りアスファルト舗装施工実績調査実施

前年度に引き続き、カレット入りアスファルト舗装施工実績調査を実施し、利用状況をまとめ、公表する。

4. 普及啓発

■促進協における「3Rの取組み」を積極的にPR

ガラスびん業界が、リデュース(均一・薄肉化による軽量化)、リユース(リターナブルびん)、リサイクル(ガラスびん製造におけるカレット利用・その他色を中心とした他用途利用)の「3R」に、積極的に取り組んでいることをアピールしていく。

■広報の基盤作りの推進

ガラスびんの「3Rの取組み」についての広報基盤作りを基本方針として、以下の広報活動を行う。

◎「記者懇談会」を開催する。

◎消費者への広報を主目的として、「エコライフ・フェア」と「エコプロダクツ」に出展する。

◎パンフレットなど広報ツールの見直し、更新を行う。

◎ホームページを適宜更新する。

◎「びんのリサイクル通信」を定期的に発行する。

◎ガラスびんリサイクルの取組み状況を広く市民にアピールするため、展示品を地方自治体のリサイクルセンター等に提供する。

5. 調査研究

■容器包装リサイクル法見直しへの対応

国が平成17年に実施する予定の容器包装リサイクル法の見直しについて、「容リ法検討プロジェクト」において検討を進めていく。

◎一般廃棄物の減量、再商品化の進捗状況等を勘案して、ガラスびんに係る課題について、対応策を検討する。

■促進協の事業内容・事業規模についての検討

当協議会の事業、役割の見直し、会費制度等について、「中長期課題検討プロジェクト」において検討する。

■環境省「容器包装LCAに係る調査・検討事業」へ参画

環境省は、飲料容器を対象に、生産、流通、消費、リサイクル、廃棄等の各段階における環境負荷をライフサイクルアセスメントの考え方をを用いて評価し、これに経済的なコストも加味して容器のあり方、その減量化の方策を検討するとともに、環境負荷の低い容器の利用拡大や最適なりサイクル手法の選択に向けた施策について検討する事業を実施。この事業に本年度も引き続き参画する。

■要請・建議等

国、地方公共団体に対してガラスびんリサイクルの促進のための要請を行うとともに、国等からの委託事業の実施、委員会・検討会への参加、協力を行う。